



なんでやねん



発行責任者 倉橋 忠

No. 7 8

こくさいざんだか

国債残高をどうすればよいか GLTで考えよう

国の税収は、2016

(平成28)年度で約58兆

円しかないのに、国債

残高は、2016(平成28)

年度末で838兆円になる

見込みである。

しかも、さらに国債

を追加発行する政府の

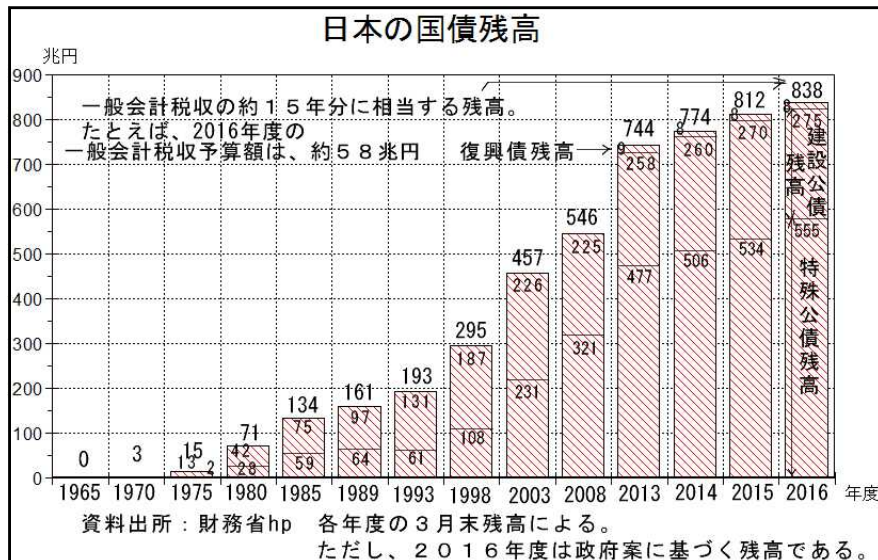
予算案が、昨日(1月20

日)召集された通常国会に提出される見込みだ。

この借金(国債残高)は、財務省によると、国民一人当たりにして約664万円になると言う(2016年度末)。

1世帯(4人家族として計算)では2,656万円になる。

将来、この借金を、国民の一人ひとりが税金を納めて、返済しなければならないことになる。これが、君たちの将来に襲いかかってくる問題だ。



【1ヵ月分の家計にたとえた場合】

【収入】月収 30万円

【支出】家計費 35万円

うち仕送り 7万円

ローン元利払い 12万円

支出合計 47万円

不足分(借金) 17万円

ローン残高 4,850万円

※ 財務省の試算による

GLTの課題

では、国債の残高を減らすために、どんな方法があるかGLTで考えてみよう。

まず、次のA案とB案の両方のメリットとデメリットを考えてみよう。

そのうえで、A案かB案のどちらを支持するか、あるいは別の案を提案するかグループで話し合ってみよう。

A案：公債(国債)の発行をやめ、大幅な増税を行って、税収だけで歳入をまかなうべきだ。

B案：公債(国債)の発行をやめ、歳出を大幅に減らし、社会資本や公共サービスはすべて民間にまかせるべきだ。

※ この課題は、教科書『新たらしい社会 公民』(東京書籍2016)p.149から転載しました。

【考えるヒント】

日本の政府は赤字国債^{あかじこくさい}を発行し続けてきた(グラフでは「特殊公債^{とくしゅこうさい}」残高として表現されている)。建設公債^{けんせつこうさい}だけでも、2016(平成28)年度には巨額^{きよがく}の残高^{ざんだか}(275兆円)になっている。

- ① 特殊公債(赤字国債)は、何に使われているのだろうか？ 教科書の資料から探ってみよう。国債の発行をやめた場合、それらの事業をどのようにするのがいいのだろうか？
- ② 建設国債で行われている公共事業^{こうきぎょう じぎょう}は、本当に必要なものに限られているのだろうか？ 公共事業で、だれが利益^{りえき}を得ているのだろうか？ それらをやめた場合はどうなるのだろうか？ 教科書の資料から探ってみよう。
- ③ 一つだけの方法^{ほうほう}で解決^{かいけつ}できるほど単純^{たんじゆん}な問題ではない。たくさんの方^{さん}の方法を集めて、解決方法を考えよう。

【少し気になること】

- ① ここまでの借金(国債)は、1万円札^{さつ}の厚み^{あつ}にするとどれ位^{くらい}になるのだろうか。1万円札は100万円で1cm。すると1億円^{おくえん}で1mの厚さになる。1兆円では10kmの厚さになる。では、838兆円の厚みは1万円札^{かき}を重ねたとして計算すると、どれくらいになるのだろうか。借金の多さ^{じっかん}が実感できただろうか。
- ② もし、このまま借金^{しゃっきん}を増やし続けると、やがては公共サービスはなくなっても、税金^{しはら}だけを支払わなければならない時代がやってくることになるだろう。それは、まるで、江戸時代^{しやみん}までのような暮らし^{ぜい}が待っていることを意味するのだ。江戸時代までは、庶民は税を負担^{ふたん}しても、税が庶民のために使われることはほとんどなかった。当時の税の利益^{とうじ ぜい りえき}は、支配層^{しはいそう}(武士階級^{ぶしがいきゅう}など)の生活費^{せいかつひ}に使用された。けれども、この先の将来^{さき}の時代は、今日の暮らし^{こんにち}の借金^くを返済^{しゃっきん}するだけで、だれにも利益^かにならない可能性^{のうせい}すらでてくるのだ。では、現在の私たちはどのように、この財政難^{ざいせいなん}を切り抜けるべきなのだろうか。江戸幕府^{ざいせいかいかく}の財政改革^{しんこく じょうきぎょう}よりも、もっと深刻な状況^{たが}だ。互いの知恵^{ちえ}を出して、将来に備えよう。主権者^{しゅけんしや}として、この国のあり方を、住民としてこの列島^{れつとう}のあり方を真剣^{かた}に考えたい。君たちは、もうすぐ政治^{しゅじんこう}の主人公にならなければならないのだから。